

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：27509

学校名：新陵小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果	分析
体力・運動能力 <男子>	<p>握力：全国平均を上回っている。 上体起こし：全国平均を上回っている。 長座体前屈：全国平均を下回っている。 反復横とび：全国平均を上回っている。</p> <p>20mシャトルラン：全国平均を下回っている。 50m走：全国平均を下回っている。 立ち幅とび：全国平均を上回っている。 ソフトボール投げ：全国平均を上回っている。</p>	○握力・上体起こし・立ち幅跳び・ソフトボール投げで全国平均を上回っており、筋力や瞬発力、投力に強みが見られる。一方、長座体前屈や20mシャトルランは全国平均を下回っており、柔軟性や持久力に課題が見られる。
体力・運動能力 <女子>	<p>握力：全国平均を上回っている。 上体起こし：全国平均を下回っている。 長座体前屈：全国平均を下回っている。 反復横とび：全国平均を下回っている。</p> <p>20mシャトルラン：全国平均を下回っている。 50m走：全国平均を下回っている。 立ち幅とび：全国平均を上回っている。 ソフトボール投げ：全国平均を上回っている。</p>	○握力・立ち幅跳び・ソフトボール投げで全国平均を上回っており、筋力や投力に強みが見られる。一方、長座体前屈・反復横跳び・20mシャトルランは全国平均を下回っており、柔軟性、敏捷性、持久力に課題が見られる。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	<p>・「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好き」と回答する子どもの割合 R 6 男子：88.2%、女子：45.5%、R 7 男子：79.3%、女子：80%</p> <p>・「体育の授業は楽しい」と回答する子どもの割合 R 6 男子：88.2%、女子：32.4%、R 7 男子：79.3%、女子：78.6%</p>	○昨年度と比較して、女子児童の中で「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と回答する割合が大きく増加した。運動や体育に対する前向きな意識の高まりが見られる。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

【目標設定と自分の伸びを知る場】
○ワークシートに記録を取り、自己の目標を設定する。
○記録の伸びや ICT 機器を使って自分の姿をみるなどを通して、子ども一人一人が自分の「伸び」を実感できるような取組を工夫する。

【環境作り】
○体育館やグラウンド以外の場所の開放、使用可能な複数種の運動用具の準備をして休み時間に体を動かしたくなるような環境づくりに取り組む。(特別活動室でダンス・トランポリン、ピロティで長縄・フラフープ)
○委員会や学級の係活動などを活用し、子どもの声を生かして遊ぶ機会をつくる。

【継続的に運動に取り組める場作り】
○「マットウィーク」や「跳び箱ウィーク」、「鉄棒ウィーク」など運動に親しめる場の設定を継続する。

【養護教諭による保健体育の授業】
○養護教諭による手洗い指導、性指導を全学年で行うことで、自分の体を知り、健康に対する意識をさらに高めていく。また、長期休みには歯磨きカレンダーを配付し、歯磨き習慣を継続的に意識できるようにする。

【栄養教諭による食指導】
○栄養教諭による食指導を通して、正しい食事の大切さや栄養について知り、健康的な食習慣を意識できるようにする。

家庭・地域との連携・協働

- OHP や学校便りによる保護者・地域にむけた教育活動の情報を発信する。
- スキー学習の際には、保護者の方々にスキーボランティアとしてご協力いただき、人材活用を図る。